

## ワクチンで予防できる「带状疱疹」



より良い医療を  
地域の人々に

社会医療法人  
岡村一心堂病院

岡山市東区西大寺南 2-1-7

Tel 086-942-9900

URL : <http://www.iss shin.or.jp/>

E-mail : [info@iss shin.or.jp](mailto:info@iss shin.or.jp)

## ワクチンで予防できる「带状疱疹」

薬局主任 山中 靖久

### ●『水痘』、『带状疱疹』と『带状疱疹後神経痛』について

子どもの頃にみずぼうそう(水痘)にかかると、発熱、倦怠感や水ぶくれは通常は跡形なく治癒します。しかし、水痘が治った後も原因ウイルスは体内(神経節)に潜んでいます。その後、加齢、疲労、ストレスなどにより免疫が低下すると神経節に潜んでいたウイルスが再活性化し、みずぶくれや痛みを伴う発疹が帯状に現れることがあります。これを『带状疱疹』と言います。

带状疱疹を発症すると強い痛み(突き刺す、焼ける、チクチク等)を伴う事が多く、発疹が治っても、この様な強い痛みが長期間残ることがあります。これを『带状疱疹後神経痛』といい、この厄介な神経痛は、特に高齢者や带状疱疹重症者、および带状疱疹発症早期から強い痛みを伴っている人に生じやすいと言われています。また、带状疱疹後神経痛になると痛みをとる有効な手段が無い場合もあり、医療の現場では問題となっています。

### ● 水痘ウイルスとの接触の減少＝带状疱疹の増加へ

水痘は冬に増えて夏に減少しますが、反対に带状疱疹は水痘が減る季節、つまり春から夏にかけて増加します。これは、子供の間で水痘が流行すると、大人の体内にも水痘ウイルスが入ります。そうすると大人の免疫が活性化され、神経節に潜んだ水痘ウイルスを抑え込む力が強くなるからです。しかし、核家族化や地域社会との繋がりが減り、高齢者の方が子供と接する機会が減少していることも高齢者において带状疱疹が増加している原因と考えられています。

※日本における子供の水痘ワクチンの定期接種は 2014 年 10 月から開始していますが、日本の水痘の感染者が減って来るのはもう少し先となります(子供が定期接種をきっちり受けることも重要!!)。

### ● 带状疱疹予防ワクチンについて

带状疱疹は、日本人の約3人に1人が80歳までに経験すると考えられており、発症は50歳以上に多く、約7割を占めています。高齢者の方がこのワクチンを接種することで带状疱疹の発症率を51.3%減少、带状疱疹後神経痛移行率も66.5%減少させるとの報告もあります。そこで、当院では50歳以上の方で带状疱疹予防のため水痘ワクチンの接種を希望される方に予防接種を行っています。保険外診療につき、費用は9500円(税込み)となります。また、当院ではワクチン接種は予約制となりますので、事前にお電話等でご予約下さい。詳しくは、当院薬局(086-942-9920)までお問い合わせ下さい。